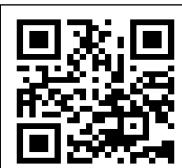




鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—183 2025 年 9 月 1 日

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email:info@k-peace-forum.org
連絡先：鹿児島市鴨池新町 5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

路線電車内での黙祷

代表 下馬場 学

8月4日から6日にかけて原水禁広島大会に参加させてもらった。表題は、6日国際シンポジウム会場に向かう時の経験だ。8時15分近く運転手が「もうすぐ8時15分です。わたしが合図しますので黙祷をお願いします。」とアナウンスした。広島では被爆者を慰霊し、その体験を残そうとしていることに感激した。その後の報道で、長崎でも同様に行われていることを知った。4日は折り鶴行進。出発点である平和公園の原爆ドームを望むモニュメントには「安らかにお眠りください 過ちは二度と繰り返せぬから」と刻んである。

しかし。現実はどうだろうか。イスラエル・米によるイランの核施設への攻撃。「核武装は安上がり」と嘯く候補者が議員になっていく。日本全土の軍事化、繰り返される軍事訓練、膨張し続ける軍事費、イギリスのステルス戦闘機 F35B は未だに鹿児島空港に駐機している。武力の強化こそが安



全保障につながるかのような風潮がこの国を覆う。繰り返される「台湾有事・中国脅威」「北朝鮮」脅威」論。本当か。米国の研究所でさえ中国の台湾侵攻は失敗するこ

とをシミュレーションで確認している。『北朝鮮』のミサイルは日本列島を素通りしている。また、通り過ぎてから J アラートを出す現状もある。



先日、昨年2月に実施した「台湾有事」想定の机上演習で、自衛隊が「核の脅し」で中国に対抗するよう米軍に再三求めていたことが明らかになった。唯一の戦争被爆国である日本の自衛隊がそのような要求をしていたことに唖然とし、憤りをおぼえる。過去、米国のオバマ大統領（当時）が「核兵器の不先制使用」を宣言しようとしたとき、安倍首相（当時）は反対し出せなかつた経過もある。中国・インドは「不先制使用」を宣言している。

原発においても、GX 法・第 7 次エネルギー基本計画において、原発回帰へこれまでの「原発依存を低減する」方針から転換した、福島は、全く終わっていない。

社会運動に詳しい立命館大の富永京子准教授は、生活保護費の減額を違法とした裁判において最高裁判決を勝ち取り、日本原水爆被害者団体協議会のノーベル平和賞受賞などを挙げ「この 10 年間、リベラルな価値が広く普及してきた」と指摘している。ヒーローを待っても世界は変わらない(湯浅誠)。また運動を続けていこう。

原水爆禁止世界大会・長崎大会

鹿児島ブロック護憲平和フォーラム 吉村公宏

1945 年の長崎県への米軍による原爆投下から 80 年という月日が経ちました。今もなお被爆の後遺症に苦しむ被爆者が大勢いる中、「核と人類は共存できない」という信念で 8 月 7 日～9 日に掛けて被爆 80 周年原水爆禁止世界大会・長崎大会が開催されました。

2024 年のノーベル平和賞は、日本被団協が受賞しました。被爆者による草の根の運動で核兵器のない世界実現のため、核兵器が二度と使われてはならない事を目撃証言を通じて示して来たことが授賞理由です。被団協のメンバーである被爆者らは、核兵器の使用がもたらす人道上の破滅的な結果について認識を高めるため、たゆまぬ努力を続け、核兵器の使用は道徳的に許されないと烙印を押す力強いメッセージが、国際的に釀成されました。このメッセージは「核のタブー」として知られています。

日本被団協がノーベル平和賞を受賞して初めての世界原水爆禁止長崎大会。核兵器廃絶の機運は世界的に確実に高まっています。にもかかわらず、日本政府の核兵器廃絶の動きは、全く見られません。2025 年 3 月、国連で核兵器禁止条約の第 3 回締約国会議が開催されましたが、日本政府はオブザーバー参加も見送りました。日本は唯一の被爆国です。核兵器のむごさや悲惨さを最も知る国です。日本が核兵器の廃絶を国家として訴えなければ、核兵器の廃絶は望めません。日本政府は、アメリカの「核の傘」に依存し、核抑止力が必要不可欠であるとした安全保障を重視していますが、それでいいはずはありません。

日本被団協の運動と日本政府の対応は、全くの真逆です。世界原水爆禁止長崎大会参加し、学習する中で日本政府の対応に怒りがこみあげて来ました。真夏の長崎でこの熱い思いを草の根の核廃絶運動にささげたいと思いました。

8 月 9 日原爆落下中心地公園の献花台に千羽鶴を供えました。その後 11 時 2 分、80 年前の原爆投下を思いました。被爆者の苦しさを思うと涙があふれて来ました。被爆の中には鹿児島から三菱重工に動員され犠牲になった若者も大勢いたとの事です。鹿児島にも被爆の関係者は多くいらっしゃいます。原爆投下はまさに自分事です。

核兵器は一瞬にしてすべてを焼き尽くします。今回、核兵器のむごさ悲惨さを再確認しました。これから核兵器廃絶に向け自分が出来ることをやり続けます。



8・15 不戦を誓う日の集会

自治研究所 吉海祐作

本年の「8・15 不戦を誓う日の集会」は、8月15日（金）「よかセンター8階」で大山正一（鹿児島県被爆二世の会・会長）さんを講師に招き、「被爆・敗戦80年 ヒバクシャ・被爆二世の歴史と課題」と銘打って開催されました。

集会は、まずは戦没者へ黙祷をささげて始まり、主催者あいさつでは、鹿児島ブロックの中村代表から、参院選でのネオナチになぞらえる勢力の拡大への憂慮と、ほとんどが戦争を知らない世代となるなか、次世代に平和の尊さを継承することの重大さが語されました。



大山会長の講演では、まずは日本被団協のノーベル平和賞受賞について言及があり、反面核保有を肯定する参政党等の勢力に対する危惧や、「台湾有事」などの懸念を指摘。続いては、これまでの被団協の活動から、広島・長崎の原爆被害の紹介、被爆者手帳が交付された被爆地域の説明、そして被害の実態などが生々しく語られました。特に外国の特派員であっても、当時はGHQによって発表禁止のプレスコードによる検閲があり、日米両国が被害の実態を隠蔽していたという事実も語られました。その後、1955年、被爆から10年後によくやく第1回原水爆禁止世界大会が開催され、翌年5月広島被団協設立、6月には長崎被災協が設立され、8月に長崎で第2回原水爆禁止世界大会が開催され、日本被団協が設立されたが、戦後10年間、被爆者は無理解と差別で孤立し、苦しみ続け、かつ見捨てられた10年であったと、被団協の結成宣言を紐解きながら説明がありました。ところが運動では核兵器廃絶という目標を掲げていても、ソ連の核実験への対応をめぐる対立、そして1963年の原水禁運動の大分裂によって、その後は保守系の核禁会議、共産党系の原水協、社会党・総評系の原水禁の3つに分かれたが、被団協はどちらにも所属せず、すべての皆さんと協力して運動を続けているとお話をありました。94年12月に制定された被爆者援護法への尽力、そして核兵器保有国への「被爆者の実相を自国民に知らせる」「核兵器の廃絶」「軍事同盟の解消」を訴えると同時に、日本国政府にも同様の訴えを続けていることが強調されます。また鹿児島県の被爆者の運動としては、1957年の原爆医療法の勉強会から始まり、1980年には県下に16支部を抱えていたが、現在では会員の高齢化等のため支部はなくなり、事務局は伊佐市の会長宅に移していることと、自身も属する「鹿児島県原爆被爆二世の会」の2007年10月の発足も語られました。ただ、原爆投下や核兵器廃絶のアンケート結果を見ても、現状はかなり厳しいという見方が多いものの、若い方に核兵器廃絶の意志を継承し、一般の方に広げていくことで、残された補償の問題、二世三世の問題を解決へと導きたいと希望をつなぐ言葉もありました。

お話を最後で、現在鹿児島市在住で、長崎で被爆された方の体験談が語られ、被ばくの瞬間の様子、傷ついた身内の体調、乗り越えた死体の山、預けられた親戚の家での過酷な労働などがありありと聴衆に伝えられました。こういった被害の実相をどのように後世に残すかも大きなテーマであり、これは皆さんにも訴えたいと述べられ、講演は終わりました。

奄美ブロックの取り組み

8. 10 「不戦を誓う日の集会」

奄美ブロック護憲平和フォーラムは、8・10 「不戦を誓う日の集会」 開催しました。

講師は「ノーモア沖縄戦命どう宝の会」 共同代表の神谷美由紀さんを、沖縄から招いて講演していただきました。

不戦、恒久平和を誓う「敗戦記念日集会」

奄美ブロックと憲法九条の会ネットワークは、8 月 15 日（金）に奄美市名瀬のアマホーム 3F 会議室にて、戦争や憲法九条改正に反対する「敗戦記念日集会」を開催しました。

南薩ブロックの取り組み

【原水禁・非核平和行進】の一環として行動する街宣は車の活用ができず、南薩ブロックは7月24日、事務局長と次長の2人で4市に「平和行政に関する要望書」を提出。枕崎市では前田祝成・市長、吉嶺周作・副議長に対応して頂きました。他の3市では行政側が総務課長、議会側から議会事務局長などに対応して頂きました。

要請事項は非核・平和行政の推進、被爆二世・三世対策など、そしてパネル展の展示を企画していただきたいとお願いしてきました。



姶良伊佐ブロックの取り組み

8月2日(土)平和学習として鹿屋戦跡巡りを開催しました。現地では、鹿屋市平和ガイドの迫さんに、桜花の碑や、資料館川東掩体壕、串良地下壕電信室などを案内していただきました。小中学生を含む21名の参加がありました。

8月16日(土)、隼人教育会館で、元イスラエル兵士ダニー・ネフセタイ氏を講師に招き、8.15 不戦を誓う日の集会を開催しました。

9・18 不戦を誓う日の集会

日時 9月18日（木）18:00～20:00

会場 鹿児島市国際交流センター1階（旧市立病院跡）

講師 吉井 千周 桜山女学園大学教授（名古屋）

演題 「柳条湖事件から満州事変へ」 戦争法施行から10年目

主催 鹿児島ブロック護憲平和フォーラム（099-255-3338）